

19/2/27 名古屋市議会経済水道委員会（名古屋城関係）

名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし

<http://www.nagoya.ombudsman.jp/castle/190227-1.pdf>

委員長 鹿島としあき（減税・西区）：次に、観光文化交流局関係であります。ご要求のありました資料が提出されておりますので、まず資料について当局の説明を求めます。

伊藤総務課長、座ったままで結構です。

伊藤総務課長：それではこの度ご要求のありました資料につきましてご説明させていただきます。お手元の経済水道委員会説明資料の裏面をごらんお願いします。

天守閣木造復元の実施設計についてでございます。

天守閣木造復元の実施設計について、平成30年度内の実施予定及び繰越予定につきまして、各区分における内容及び金額を掲げさせていただきました。

設計業務におきましては、構造解析、現状変更許可書類作成、建築基準法第3条適用書類作成を、調査業務におきましては、地盤調査、石垣調査、有害物質調査を繰り越す予定となっております。

資料の説明につきましては以上でございます。

よろしく御審議いただきますようお願い申し上げます。

委員長 鹿島としあき（減税・西区）：説明が終わりましたので資料に対する質疑を含め、総括質疑をお許しいたします。

江上博之（共産・中川区）：まず資料からお聞きをします。

それぞれの項目の繰越理由ですね。

項目としては六つ上がっておりますけれども、どうして繰り越すことになったのか説明をお願いします。

新井主幹：資料に上げております繰越予定のものについて、その理由としましては、昨年度から引き続いております石垣の評価、それと保全対策について有識者の理解が得られておらずということで、基本計画書の提出ができなかったということが、メインとなって主な理由となっております。

江上博之（共産・中川区）：そうすると、今一番問題になってるのが石垣の保全の問題だということですが、この実施設計の中で例えば石垣調査というのがありますけれども、これは今どういう段階になってるのでしょうか。

村木主幹：こちらの石垣調査なんですけれども、こちらは天守台、天守閣の入り口のところにあります階段のところの発掘調査をする予定になってございます。

こちらにつきましてもまだ天守台外部の調査の分析を進めておる関係でございまして、来年度の実施に向けて準備をしている段階でございます。

江上博之（共産・中川区）：地盤調査というのはどういう段階になってますか。

新井主幹：地盤調査はですね、今年度行う予定でございましたが、その調査に伴う石垣部会、石垣の関係との調査が調整がありまして、まだ実施できていないということでございます。

ただ、業務としては引き続き進めていただきたいと思っておりますので、来年早々には実施したいというふうに考えております。

江上博之（共産・中川区）：地盤調査って、どんな中身のことだということね。それに関連して、たいてい他のところにも影響して、それも進んでいないということになるんじゃないかと思っておりますので、説明願います。

新井主幹：申し訳ありません。今回この繰越をする地盤調査につきましては、現在ある大天守小天守のちょうど真下にですね、地盤の調査をするとボーリング調査をするというものでございます。

それに基づきまして、構造解析に、それを反映させていくということと、あとあわせて建築基準法三条の適用の書類を整えていくというものでございます。

江上博之（共産・中川区）：そうしますと、基本的に一番問題なのは石垣に伴う保全方針、それができていないと、それに伴って基本計画が出せないと。それが一番の問題になっているということであると、この現状変更許可書類作成というのもそれにかかわってのことになるということですか。

新井主幹：地盤調査に伴って構造解析、あと建築基準法 3 条適用の書類ということがありますが、現状変更許可申請書類に、の中に盛り込む、構造関係のものというものはそこまで詳細なものが必要ないという段階での書類として整えておりますので、今回この地盤調査につきまして、繰り越しをしますが、それと、基本計画書、現状変更許可書類作成とは必ずしも同じではありません。

江上博之（共産・中川区）：この地盤調査については現状変更許可、これは必要

なんですか。

新井主幹：地盤調査自体は、その調査を行うという意味で、現状変更許可書類が必要になります。

江上博之（共産・中川区）：現状変更許可はまだ受けていないということですか。

新井主幹：おっしゃる通りです。

江上博之（共産・中川区）：これは穴蔵調査とも絡みますけれども、この穴蔵調査についても現状変更許可が必要だと思いますが、これと同一時期に出すとかそういう計画でみえるんですか。

新井主幹：同一時期に出さなきゃいけないというものではありませんが、できるだけ早く、出して調査に進めていきたいというふうに思っております。

江上博之（共産・中川区）：この有害物質調査というのはこれ何を残してるんですか。

新井主幹：既設の今ある大天守小天守閣ありますが、それを解体する前にですね、今の建物やりますフロンガス PCB あとアスベストそういった関係のものがあるかないか、それを調査をしまして、調査結果そういうのもあるようであれば、別に処分の手続きを踏んでいくというもので、その調査を事前に行うというものでございます。

江上博之（共産・中川区）：わかりました。それは要は解体時において問題が起きるからということになるようですから、一番問題はやっぱり現状変更許可書類の作成問題、石垣の保全方針が立っていないということが問題になるようですけれども、繰り越しを行ってもね。今の話が進まなければ、いつ時期に次年度、やれるかどうかははっきりしないということを思いますけれども、そうするとこの現状変更許可作成でだいたいいつごろを予定してそのためには石垣部会いつごろかっていうのはどういう予定で見えるんでしょうか。

西野所長：私どもとしては、昨年のですね 10 月の文化審議会に基本計画書を図っていただくということで進めてまいりましたけれども、石垣有識者からですね石垣のその外部の調査を、についてですねまだ不十分であると。

そういうお話をいただいております、現時点でまだその石垣のその保全の考

え方についてですね、有識者のご了解を得ていないと。  
これをできるだけ早くいただくということで、その後、コンサルタントの助言も得ながら、検討を進めておるといってございます。  
何時にといことは今申し上げることができませんけれども、先ほどから答弁いたしておりますようにできるだけ早く、こちらの方ですね。  
詰めてまいりまして現状変更許可の書類が出せるようにと得てまいりたいと、そういうふうを考えているところでございます。

江上博之（共産・中川区）：そうするとこれが繰越をされたとしてもですね。  
結局 5 月の文化審議会に木造天守の現状変更許可申請、これは出すことができないということがはっきりしたということですかね。

西野所長：5 月の文化審議会につきましては私どもとしては、解体の許可申請をしていくと、復元につきましてはもうすこしですね時間をかけて整えてですね出していくと、そういうふうを考えていることでございます。

江上博之（共産・中川区）：解体という言葉が入ってくるものだから、何か一つは申請するかのように聞こえるんだけど、今までね。  
11 月議会までの間の文化庁への 5 月の文化審議会の申請というのはもう一体で考えてきているわけですから、そんな解体なんて話は一切なかったわけで、そういう点では今まで 11 月議会で言ってきたそういう申請から言うと 5 月の審議会には出せない。そういうことでいいですね。

西野所長：その通りでございます

江上博之（共産・中川区）：じゃあ穴蔵の方に戻りますけれども、穴蔵調査で、昨日の答弁で、コンサルタント、これは説明は省きますけどね。  
コンサルタントが、穴蔵調査のため、天守閣がない方がいいと言ったと。  
ただ石垣部会では、それは解体しなくても別に調査ができるということをやったというような趣旨を私は昨日確認したつもりですけども、本当にコンサルタントがこの調査のために天守を穴蔵調査のためにですよ、天守を解体した方がいいと。こういう発言をしたというのは事実なんですか。

村木主幹：はい。コンサルタントに相談しましたところ、まず穴蔵石垣を復元するという前提がございまして、そのためにはまず穴蔵石垣の状態を調べた方がいいだろうということで、まず試し掘り的な調査を行った上で、その上で、現天守を解体して、穴蔵石垣のは全体を調べた方がいいというようなご助言を

いただいたというところでございます。

江上博之（共産・中川区）：ちょっと難しい言い方なんですけど、ためし掘りをして、その上で解体した方が、ようはやはり何らかのどっかの段階では解体が必要だけれども、現時点でやっぱり解体してあった方がいいというようなことを言われたということなんですか。

村木主幹：穴蔵石垣を復元していくという目的のためには、現天守を解体して調査をする、しておかなければならないと、しておくべきであるというようなご助言をいただいたということでございますけれ

江上博之（共産・中川区）：そうすると、そのコンサルタントが言ったのは穴蔵調査をし、穴蔵を復元していくにおいては解体した方がいいと言ったけれども、結果的には石垣部会の方でそこまでやる必要はないと言われたと。したがって、河村市長が記者会見で述べられたような耐震性について必要だから解体が必要だというようなことは、コンサルタントは言っていないという。そういう理解でよろしいですか。

西野所長：今委員のお話のように、コンサルタントとしては私どもが天守を復元していくという、そういう計画を持っているというのは当然それ前提になってますけれども、この穴蔵を復元していくためにはやはり天守を壊してきちっと調査をしないとわからない面がありますから、天守を解体していくのはどうかというふうに言われましたので、耐震性のことについてですね、から解体した方がいいとそういうふうに言われたわけではないということでございます。

江上博之（共産・中川区）：コンサルタントの発言がね。なんかあ。本人が言われた以上に、僕は広がってて、コンサルタントに僕は失礼なことになってないかなということ非常に心配しております。穴蔵そのものの問題等含めてねこのこと自体は、2022年にやる必要はないと私は思っておりますけれども、そういう他に失礼なことがないようにね、これは丁寧に市長に改めて言っておきたいと思えますし、今、どういう発言をされたかっていうの確認をさせていただいたのも、きちっと事実をね、確認したいがために行いました。